

高等学校 令和7年度（3学年用） 教科 国語 科目 国語探究

教科：国語 科目：国語探究 単位数：2 単位
 対象学年組：第3学年 1組～7組
 教科担当者：（1～7組： ）
 使用教科書：（啓隆社 国語常識の総演習 ）
 教科 国語 の目標：

- 【知識及び技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を伸ばす。
- 【学びに向かう力、人間性等】言葉のもつ価値への認識を深めるとともに、言語感覚を磨き、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

科目 国語探究 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配 当 時 数
			話	聞	書 読					
1 学 期	第1・2回	語句の読み、書き、意味、慣用句、ことわざ、その他国語常識を理解し、会話や文章の中で適切に使用できるようにする。	○	○	○	(知) 語句の読み、書き、意味、慣用句、ことわざ、その他国語常識を理解する。 (思) 国語常識を理解し、会話や文章の中で適切に使用できる。 (態) 課題と向き合い、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	○	○	○	14
	第3・4回	語句の読み、書き、意味、慣用句、ことわざ、その他国語常識を理解し、会話や文章の中で適切に使用できるようにする。	○	○	○	(知) 語句の読み、書き、意味、慣用句、ことわざ、その他国語常識を理解する。 (思) 国語常識を理解し、会話や文章の中で適切に使用できる。 (態) 課題と向き合い、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	○	○	○	14
2 学 期	第5・6回	語句の読み、書き、意味、慣用句、ことわざ、その他国語常識を理解し、会話や文章の中で適切に使用できるようにする。	○	○	○	(知) 語句の読み、書き、意味、慣用句、ことわざ、その他国語常識を理解する。 (思) 国語常識を理解し、会話や文章の中で適切に使用できる。 (態) 課題と向き合い、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	○	○	○	14
	第7・8回	語句の読み、書き、意味、慣用句、ことわざ、その他国語常識を理解し、会話や文章の中で適切に使用できるようにする。	○	○	○	(知) 語句の読み、書き、意味、慣用句、ことわざ、その他国語常識を理解する。 (思) 国語常識を理解し、会話や文章の中で適切に使用できる。 (態) 課題と向き合い、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	○	○	○	14
3 学 期	第9・10回	語句の読み、書き、意味、慣用句、ことわざ、その他国語常識を理解し、会話や文章の中で適切に使用できるようにする。	○	○	○	(知) 語句の読み、書き、意味、慣用句、ことわざ、その他国語常識を理解する。 (思) 国語常識を理解し、会話や文章の中で適切に使用できる。 (態) 課題と向き合い、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	○	○	○	14

高等学校 令和7年度（3学年用） 教科 国語 科目 入試国語演習

教科：国語 科目：入試国語演習 単位数：2 単位

対象学年組：第3学年 1組～7組

教科担当者：（1～7組：古宮）

使用教科書：（過去の演習新国語問題集アシスト、論読評論文、日本文学史必携）

教科 国語 の目標：

- 【知識及び技能】入試に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- 【学びに向かう力、人間性等】言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

科目 入試国語演習 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
入試に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域			評価規準	知	思	態	配当 時数
			話・聞	書	読					
1 学期	第1・2回	進路対策として入試における実践力を養うため、問題を解かせ、解答開設を行う。更に、文学史の小テストを行い、国語の基礎的な素養を養う。	○	○	○	(知) 文学史、語句の読み、書き、意味、慣用句、ことわざ、その他国語常識を理解する。 (思) 文章を速読し、内容を的確に読み取り、正確に問題に解答する。 (態) 課題と向き合い、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	○	○	○	14
	第3・4回	進路対策として入試における実践力を養うため、問題を解かせ、解答開設を行う。更に、文学史の小テストを行い、国語の基礎的な素養を養う。	○	○	○	(知) 文学史、語句の読み、書き、意味、慣用句、ことわざ、その他国語常識を理解する。 (思) 文章を速読し、内容を的確に読み取り、正確に問題に解答する。 (態) 課題と向き合い、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	○	○	○	14
2 学期	第5・6回	進路対策として入試における実践力を養うため、問題を解かせ、解答開設を行う。更に、文学史の小テストを行い、国語の基礎的な素養を養う。	○	○	○	(知) 文学史、語句の読み、書き、意味、慣用句、ことわざ、その他国語常識を理解する。 (思) 文章を速読し、内容を的確に読み取り、正確に問題に解答する。 (態) 課題と向き合い、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	○	○	○	14
	第7・8回	進路対策として入試における実践力を養うため、問題を解かせ、解答開設を行う。更に、文学史の小テストを行い、国語の基礎的な素養を養う。	○	○	○	(知) 文学史、語句の読み、書き、意味、慣用句、ことわざ、その他国語常識を理解する。 (思) 文章を速読し、内容を的確に読み取り、正確に問題に解答する。 (態) 課題と向き合い、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	○	○	○	14
3 学期	第9・10回	進路対策として入試における実践力を養うため、問題を解かせ、解答開設を行う。更に、文学史の小テストを行い、国語の基礎的な素養を養う。	○	○	○	(知) 文学史、語句の読み、書き、意味、慣用句、ことわざ、その他国語常識を理解する。 (思) 文章を速読し、内容を的確に読み取り、正確に問題に解答する。 (態) 課題と向き合い、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	○	○	○	14

東京都立篠崎高等学校 令和7年度 教科 地理歴史 科目 自由選択 地理探究 年間授業計画

教科：地理歴史 科目：自由選択 地理探究 単位数：2単位

対象学年組：第3学年

教科担当者：沢野

使用教科書：（帝国書院『新詳地理探究』、帝国書院『新詳高等地図』）

使用教材：（東京法令出版『新編フォトグラフィア 地理図説2023』）

	指導内容	科目 自由選択 地理B の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
4月	地形図・地図記号	地形図の種類と地図記号を理解する。	地形図と地図記号を理解できたか。	2
	大地形	地形の成り立ちを理解する。	地形の成り立ちを理解できたか。	2
5月	小地形	大地形に引き続き、どのような要因で地形が形成されていくかを理解する。	地形の成り立ちを理解できたか。	2
	気候・ケッペンの気候区分	ケッペンの気候区分を復習し、各気候の特徴を理解する。	各気候の特徴を理解できたか。	2
	気候・雨温図・ハイサーグラフ	雨温図・ハイサーグラフを作成し、各気候を理解する。	雨温図とハイサーグラフを作成し、各気候の特徴を理解できたか。	2
6月	気候・植生と土壌	植生と土壌の関係を各気候区と関連させて理解する。	植生と土壌の関係を理解できたか。	2
	日本の地形・気候・自然災害	日本の地形と気候を復習し、自然災害の特徴も理解する。	日本の自然災害の特徴を理解できたか。	2
	環境問題・地球温暖化・森林破壊	地球温暖化と森林破壊の現状を理解する。	地球温暖化と森林破壊の現状を理解できたか。	2
	環境問題・砂漠化・大気汚染	砂漠化と大気汚染の現状を理解する。	砂漠化と大気汚染の現状を理解できたか。	2
7月				
8月				

	指導内容	科目 自由選択 地理B の具体的な指導目標	評価の観点・方法	配当 時数
9月	資源と産業・農林水産業・主要農産物	世界各地の農林水産業の特徴を理解する。	世界の農林水産業の特徴を理解できたか。	2
	資源と産業・食糧問題	食糧問題の現状を理解する。	食糧問題の現状を理解できたか。	2
	資源と産業・エネルギー資源	世界のエネルギー資源の特徴を理解する。	世界のエネルギー資源の特徴を理解できたか。	2
10月	資源と産業・鉱産資源・主要鉱産物	世界の鉱産資源と主要鉱産物の現状を理解する。	世界の鉱産物の現状を理解できたか。	2
	資源と産業・工業の発達・世界の工業地帯	工業の発達と世界の工業地帯の現状を理解する。	工業発達の推移と工業地帯の現状を理解できたか。	2
	資源と産業・第3次産業・観光・交通網	第3次産業と観光業を世界の交通網と関連させて理解する。	第3次産業と観光業を交通網の発達と関連させて理解できたか。	2
11月	資源と産業・貿易	世界の貿易の状況を理解する。	世界の貿易の状況を理解できたか。	2
	世界の人口・人口問題	世界の人口問題を理解する。	世界の人口問題の現状を理解できたか。	2
	村落と都市・集落の立地	集落の立地を具体例を通して理解する。	集落の立地を理解できたか。	2
	村落と都市・都市問題	世界の都市問題を理解する。	世界の都市問題の現状を理解できたか。	2
12月	生活文化・世界の衣食住	世界の衣食住を具体例を通して理解する。	世界の衣食住を各地域ごとに理解できたか。	2
1月	生活文化・食生活と宗教	食生活と宗教の関係を理解する。	宗教の食生活に関するタブーを理解できたか。	2
	民族と宗教・民族・言語	世界の宗教と民族、言語を理解する。	宗教と民族、言語の関係を理解できたか。	2
	現代世界の国家・民族宗教問題	世界の民族問題と宗教問題を理解する。	世界の民族・宗教問題の現状を理解できたか。	2
2月				
3月				

高等学校 令和7年度（3学年用）教科

地理歴史科 科目 歴史探究

教科：地理歴史科

科目：歴史探究

単位数：2 単位

対象学年組：第 3 学年

教科担当者：森川

使用教科書：（帝国書院『明解歴史総合』）

教科 地理歴史科 の目標：

【知識及び技能】 歴史的な転換点の因果について理解しているとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめている。

【思考力、判断力、表現力等】 歴史的事象の意義、及びその特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、現代社会に見られる課題の解決に向けて構想したり、考察、構想したことを効果的に説明したりそれらを基に議論したりしている。

【学びに向かう力、人間性等】 現代の諸課題について、歴史的事象を踏まえ、より良い社会の実現を視野に主体的に解決しようとしている。

科目 歴史探究 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
歴史総合での学習をふまえ、現代世界の持つ重要な要素としての「大衆化社会」、「グローバル化社会」が、さまざまな国際秩序の変化に基づいて生じていることについて理解を深めるとともに、諸史料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技術を向上させる。	歴史総合での学習をふまえ、歴史的事象の意味や意義、特色や相互の関連を、地形的関係、社会体制、人間と自然環境との相互関係、相互依存作用などに着目しつつ活用し、多角的、多面的に考察したり、現代の諸課題の解決に向けて構想、考察したことを効果的に説明したり、議論したりする力をばす。	歴史総合での学習をふまえ、歴史的事象を踏まえ、より良い社会の実現を視野に、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的に考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、及び世界と結びつく国際人としての自覚などをさらに深める。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	<ul style="list-style-type: none"> 歴史総合で学習した力を生かし、自らの進路をふまえ自ら調べ知識を深めを表現する力を身につける。 【知識及び技能】 知識を深めるために必要な文献を採すことができる。 【思考力、判断力、表現力等】 自ら調べたことを表現するための基礎的な手法を身につける。 【学びに向かう力、人間性等】 知的好奇心をもって主体的に歴史と向き合うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 指導事項 研究テーマの設定の仕方・文献の探し方・レポート作成の基礎知識・講義をとおり歴史的関心を深める 教材 教科書・資料集・一般書籍 	<ul style="list-style-type: none"> 【知識及び技能】 歴史事項を正しく理解し知識を広げることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 文献を活用しレポート形式で表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ゼミ形式の授業に積極的に参加し知識や関心を深めようとする姿勢がみられる。 	○	○	○	24
2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> 1学期に身につけた知識や表現する力を発展させる。 【知識及び技能】 複数の文献を活用できるようになる。 【思考力、判断力、表現力等】 文化祭の展示や小論文の手法で表現する力を身につける。 【学びに向かう力、人間性等】 フィールドワークや文化祭の展示などで知的好奇心や歴史的関心をもって主体的に学ぶことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 指導事項 レポート形式から小論文形式で表現する能力を身につける・講義だけでなく文化祭などでの発表をとおり歴史的関心を深める・フィールドワークの手法を学ぶ 教材 教科書・資料集・一般書籍 	<ul style="list-style-type: none"> 【知識及び技能】 歴史事項を正しく理解し知識を広げることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 複数の文献を活用し小論文形式で表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 フィールドワークや文化祭での活動に積極的に参加し知識や関心を深めようとする姿勢がみられる。 	○	○	○	26
3 学 期	<ul style="list-style-type: none"> 1・2学期に学んだことを小論文にまとめ、進路につなげる。 【知識及び技能】 複数の文献を活用し小論文にまとめることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 歴史的な事項を小論文形式で表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 自らの進路と関わりの深いテーマの小論文作成によって主体的に歴史と向き合うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 指導事項 小論文の作成、発表 教材 教科書・資料集・一般書籍 	<ul style="list-style-type: none"> 【知識及び技能】 小論文の作成や発表をとおり歴史事項を正しく理解し知識を広げることができる。 【思考力、判断力、表現力等】 小論文の作成や発表をとおり思考力、判断力、表現力を身につけることができる。 【学びに向かう力、人間性等】 小論文の作成や発表をとおり積極的かつ主体的に知識や関心を深めようとする姿勢がみられる。 	○	○	○	20
合計							70

高等学校 令和7年度（3学年用） 教科 公民 科目 社会科学入門

教科：公民

単位数：2 単位

対象学年組：第 3 学年 1 組～ 7 組

教科担当者：（1組～7組：北原）

使用教科書：（第一学習社『高等学校政治・経済』）

教科 公民 の目標：

- 【知識及び技能】 各自の興味関心に応じて見出した社会的な課題について、他者との協働に基づく探究的な学びを通して理解することができる。
- 【思考力、判断力、表現力等】 各自の興味関心に応じて見出した社会的な課題を解決するために調査を基に、多面的、多角的に分析し、その過程や望ましい解決の在り方について表現することができる。
- 【学びに向かう力、人間性等】 各自の興味関心に応じて見出した社会的な課題について、他者と協働しながら主体的に望ましい解決の在り方について探究しようとしている。

科目 公民 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
各自の興味関心に応じて見出した社会的な課題について、他者との協働に基づく探究的な学びを通して理解することができる。	各自の興味関心に応じて見出した社会的な課題を解決するために調査を基に、多面的、多角的に分析し、その過程や望ましい解決の在り方について表現することができる。	各自の興味関心に応じて見出した社会的な課題について、他者と協働しながら主体的に望ましい解決の在り方について探究しようとしている。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数	
1 学 期	・各自の興味関心を明確化する。	・ガイダンス ・課題発見と情報収集	年間を通じて ・目標に照らし、十分な意欲をもって活動したかという観点に基づいて評価を行う。 ・生徒の形成的評価をふまえ、指導に関わった教員の診断的評価を集約し、総合的に評価をする。	○	○	○	24	
2 学 期	・各自の興味関心に応じて社会的な課題を見出す。 ・他者との協働を通じて見出した課題について、その解決策を構想するために必要な情報を収集し、仮説検証を行う。	・問題の原因分析 ・解決策の検討 ・中間報告会	年間を通じて ・目標に照らし、十分な意欲をもって活動したかという観点に基づいて評価を行う。 ・生徒の形成的評価をふまえ、指導に関わった教員の診断的評価を集約し、総合的に評価をする	○	○	○	26	
3 学 期	・冬季休業を活用し、課題解決のための情報収集等を行う。 ・各自が探究するテーマに関する情報収集した内容を整理、分析し、課題を解決策するプランを発表し、企業からのフィードバックを基に方向性の修正を図る ・1年間の学習の成果とともに、発表する。	・まとめと探究の技法 ・発表スライドの作成 ・発表準備 ・プレ発表 ・最終発表	年間を通じて ・目標に照らし、十分な意欲をもって活動したかという観点に基づいて評価を行う。 ・生徒の形成的評価をふまえ、指導に関わった教員の診断的評価を集約し、総合的に評価をする	○	○	○	20	
							合計	70

高等学校 令和7年度 教科 数学

科目 数学 I (自選 数学 I・A基礎)

教科: 数学 科目: 数学 I (自選 数学 I・A基礎) 単位数: 2 単位
 対象学年組: 第 3 学年 組 ~ 組
 教科担当者: (1 ~ 7 組: 井出、春田)
 使用教科書: (数研出版 新編数学 I 新編数学A 新課程基本と演習テーマ数学 I + A)

教科 数学 の目標: 数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。
 【知識及び技能】 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学科したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
 【思考力、判断力、表現力等】 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し、総合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
 【学びに向かう力、人間性等】 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

科目 科目 数学 I (自選 数学 I・A基礎) の目標: 数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
<p>数学 I 数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。</p> <p>数学 A 図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。</p>	<p>数学 I 命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的に見たり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象的確に表現してその特徴を捉え、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会的事象などから設定した問題について、データの散らばりや数量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。</p> <p>数学 A 図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質を見いだし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見いだし、整理的に考察する力を養う。</p>	<p>数学 I 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。</p> <p>数学 A 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。</p>

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	記 時 数
<p>数学 I 1 章 数と式</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 指数法則や乗法公式といった計算規則についての理解を深め、適切に式を変形することができる。 乗法公式を逆に用いることで因数分解の公式として利用できることを理解し、式を正しく因数分解することができる。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 式を多面的に捉える工夫の中から、目的に応じて適切な方法を判断することができる。 式の特徴に応じて、式の一部を1つの文字に置き換えて考えたり、特定の文字に着目して整理するなど、見通しをもって式を因数分解したりすることができる。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 式を多面的に捉えて、複数の方法で式を変形する方法や整理して因数分解する方法について、それぞれのよさを比較・検討しようとしている。 <p>数学 A 1 章 場合の数と確率</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 集合の要素の個数に関する基本的な関係や和の法則、積の法則などの数え上げの原則について理解している。 具体的な事象を基に順列の意味を理解し、順列の総数を求めることができる。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 事象の構造などに着目し、場合の数を求める方法を多面的に考察することができる。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 場合の数で学んだことのよさを認識し活用したり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 場合の数で学んだことを活用した問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。 	<p>・指導事項</p> <p>数学 I 第 1 章 数と式</p> <ol style="list-style-type: none"> 多項式の加法・減法・乗法 展開の公式 因数分解(1) 因数分解(2) <p>数学 A 準備 集合</p> <p>第 1 章 場合の数と確率</p> <ol style="list-style-type: none"> 集合の要素の個数 場合の数 順列 円順列 <p>・教材</p> <p>新課程基本と演習テーマ</p> <p>・一人 1 台端末の活用 等</p>	<p>数学 I</p> <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2次の乗法公式、因数分解の公式について理解を深めている。 数を実数まで拡張する意義を理解し、簡単な無理数の四則計算をすることができる。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 問題を解決する際に、すでに学んだ計算の方法と関連付けて、式を多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形したりすることができる。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 数と式で学んだことのよさを認識し活用したり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 <p>数学 A</p> <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 和集合・補集合の要素の個数、和の法則や積の法則を利用した場合の数え上げることができる。 順列の総数 nPr や階乗の値や条件のある並び方の総数などを計算することができる。 円順列や重複順列について理解し、それらの総数を計算することができる。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 集合の要素の個数を図や補集合を用いて考察したり、和の法則や積の法則を利用して場合の数を計算したりすることができる。 円順列及び重複順列について図をかくなどしながら、原理を理解して立式し、場合の数の求め方を考察することができる。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 集合の要素の個数を図や補集合を用いて考えたり、積の法則による場合の数の計算方法を考えたりしようとしている。 円順列及び重複順列について図をかくなどしながら、立式して場合の数の求め方を考えようとしている。 	○	○	○	6
<p>数学 I 1 章 1 節 数と式</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 不等式の意味やその基本性質、不等式の解と不等式を解くことの意味について理解し、1次不等式を解くことができる。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体的な数の大小関係をもとにして、説明したりすることができる。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体的な数の大小関係をもとにして、不等式の基本性質について考察したりすることができる。 <p>数学 A 1 章 場合の数と確率</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体的な事象を基に組合せの意味を理解し、組合せの総数を求めることができる。 確率の意味や基本的な法則についての理解を深め、それらを用いて事象の確率を求めることができる。 独立な試行の意味を理解し、独立な試行の確率を求めることができる。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 確率の性質や法則に着目し、確率を求める方法を多面的に考察することができる。 確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断することができる。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 確率で学んだことのよさを認識し活用したり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 確率で学んだことを活用した問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。 	<p>・指導事項</p> <p>数学 I 第 1 章 数と式</p> <ol style="list-style-type: none"> 実数 根号を含む式の計算 不等式の性質 1次不等式 絶対値を含む方程式・不等式 <p>数学 A 第 1 章 場合の数と確率</p> <ol style="list-style-type: none"> 組合せ 事象と確率 確率の基本性質 独立な試行と確率 <p>・教材</p> <p>新課程基本と演習テーマ</p> <p>・一人 1 台端末の活用 等</p>	<p>数学 I</p> <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 不等式の解の意味や不等式の性質について理解し、1次不等式の解を求めることができる。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 不等式の性質を基に1次不等式を解く方法を考察することができる。 <ul style="list-style-type: none"> 日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、1次不等式を問題解決に活用することができる。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 数と式で学んだことを活用した問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。 <p>数学 A</p> <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 順列や組み合わせを利用して、確率を求めることができる。 加法定理や余事象・和事象の考え方を活用して、確率を求めることができる。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 確率の基本性質について考察することができる。 独立な試行の確立の考え方を活用して、反復試行の確立を考察することができる。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 同様に確からしい根元事象と関連付けながら事象の確率の考え方を説明しようとしている。 余事象を用いて確率を求めることのよさに気づき、余事象を積極的に活用しようとしている。 	○	○	○	7
定期考査			○	○		1

<p>・学期</p>	<p>数学 I 2 章 集合と論証</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 集合に関する基本的な概念や記号の意味を理解し、適切に用いることができる。 命題と条件、必要条件、十分条件、必要十分条件の用語の定義を理解している。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体的な集合の例をもとにして、集合同士の共通部分や和集合の概念について考察することができる。 条件や命題の真偽について、それらを集合の包含関係と関連付け、図表示による表現を用いて考察することができる。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体的な集合の例をもとにして、集合同士の共通部分や和集合の概念について考えようとしている。 条件や命題の真偽について、それらを集合の包含関係と関連付け、図表示による表現を用いて考えようとしている。 <p>数学 A 1 章 場合の数と確率、2 章 図形の性質</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 条件付き確率の意味と確率の乗法定理を理解し、条件付き確率を求めることができる。 期待値について理解し、期待値を求めたり、期待値を利用して確率を求めたりすることができる。 三角形の内角の二等分線と比、外角の二等分線と比などについて理解し、それらを用いて線分の長さを求めることができる。また、数直線上の内分点、外分点の座標を求めることができる。 三角形の外心・内心・重心の性質を利用して、角の大きさや線分の長さを求めることができる。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> これまで求めてきた確率と条件付き確率の違いを説明することができる。 三角形の外心・内心・重心の存在とその証明について、様々な性質を利用しながら考察することができる。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 期待値を具体的な問題の意思決定に利用しようとしている。 三角形の外心・内心・重心の存在とその証明について、 	<p>・指導事項</p> <p>数学 I 第 2 章 集合と命題</p> <ol style="list-style-type: none"> 集合 命題と条件 必要条件と十分条件 条件の否定 命題とその逆・対偶・裏、命題と証明 <p>数学 A 第 1 章 場合の数と確率</p> <ol style="list-style-type: none"> 条件付き確率 期待値 <p>第 2 章 図形の性質</p> <ol style="list-style-type: none"> 中学校で学んだ平面図形 三角形の辺の比 三角形の外心・内心・重心 <p>・教材</p> <p>新課程基本と演習テーマ 一人 1 台端末の活用 等</p>	<p>数学 I</p> <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 集合と命題に関する基本的な概念を理解している。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 集合の考えを用いて論理的に考察し、簡単な命題を証明することができる。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 集合と論証で学んだことのよさを認識し活用したり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 集合と論証で学んだことを活用した問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。 <p>数学 A</p> <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 条件付き確率を求めることができる。 三角形に関する基本的な性質について理解している。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 確率の性質などを利用して期待値について考察することができる。 図形の構成要素間の関係や既に学んだ図形の性質に着目し、図形の新たな性質を見だし、その性質について論理的に考察したり説明したりすることができる。 コンピュータなどの情報機器を用いて図形を表すなどして、図形の性質や作図について統合的・発展的に考察することができる。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 条件付き確率の求め方を考えようとしている。 図形の性質で学んだことのよさを認識し活用したり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 図形の性質で学んだことを活用した問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。 	○	○	○	6
	<p>数学 I 3 章 2 次関数</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2 次関数の意味や関数の値の表し方、及び 2 次関数の値の変化やグラフの特徴について理解し、2 次関数の式を平方完成するなどして、グラフをかくことができる。 関数の定義域・値域の意味を理解し、1 次関数や 2 次関数のグラフを用いて最大値、最小値を求めることができる。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2 つの 2 次関数のグラフの位置関係について考察することができる。 2 次関数のグラフを利用して、定義域に応じた値域、最大・最小を論理的に考察したり、具体的な問題の解決に活用したりすることができる。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2 つの 2 次関数のグラフの位置関係について考えようとしている。 2 次関数のグラフを利用して、定義域に応じた値域、最大・最小を考えようとしている。 <p>数学 A 2 章 図形の性質</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> チェバの定理、メネラウスの定理を利用していろいろな辺の長さや比を求めることができる。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 三角形の外心・内心・重心の存在とその証明について、様々な性質を利用しながら考察することができる。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 三角形の外心・内心・重心の存在とその証明について、様々な性質を利用しながら考えようとしている。 	<p>・指導事項</p> <p>数学 I 第 3 章 2 次関数</p> <ol style="list-style-type: none"> 関数とグラフ 2 次関数のグラフ 2 次関数の最大・最小 <p>数学 A 第 2 章 図形の性質</p> <ol style="list-style-type: none"> チェバの定理、メネラウスの定理 三角形の辺と角 <p>・教材</p> <p>新課程基本と演習テーマ 一人 1 台端末の活用 等</p>	<p>数学 I</p> <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2 次関数の値の変化やグラフの特徴について理解している。 2 次関数の最大値や最小値を求めることができる。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2 次関数の式とグラフとの関係について、コンピュータなどの情報機器を用いてグラフをかくなどして多面的に考察することができる。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2 次関数で学んだことのよさを認識し活用したり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 <p>数学 A</p> <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 三角形に関する基本的な性質について理解している。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 図形の構成要素間の関係や既に学んだ図形の性質に着目し、図形の新たな性質を見だし、その性質について論理的に考察したり説明したりすることができる。 コンピュータなどの情報機器を用いて図形を表すなどして、図形の性質や作図について統合的・発展的に考察することができる。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 図形の性質で学んだことのよさを認識し活用したり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 図形の性質で学んだことを活用した問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。 	○	○	○	7
定期考査				○	○		1

2 学 期	<p>数学Ⅰ 3章 2次関数</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2次関数を決定するための条件について基礎的な知識を身に付け、グラフに関する条件から2次関数を決定することができる。 判別式を用いて、2次方程式の解の個数を調べることができる。 2次不等式の解と2次関数のグラフの関係について理解し、2次関数のグラフを用いて2次不等式の解を求めることができる。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2次関数のグラフとx軸の共有点について、2次方程式の実数解と関連させて考察することができる。 2次方程式の実数解の個数に対する判別式の意義や有用性について考察することができる。 2次不等式を利用して具体的な問題について解決することができる。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2次関数のグラフとx軸の共有点を、2次方程式の実数解と関連つけて考えようとしている。 判別式を活用して2次方程式の実数解の個数の分析を考えようとしている。 <p>2次関数のグラフとx軸の共有点の位置関係を活用して2次不等式の解を考えようとしている。</p> <p>数学A 2章 図形の性質</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 円周角の性質について理解している。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 円に内接する四角形の定理、接線と弦のつくる角の定理それぞれの証明について、円周角の定理を利用して考察することができる。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 円周角の定理を利用して、円に内接する四角形について考えようとしている。 	<p>・指導事項</p> <p>数学Ⅰ 第3章 2次関数</p> <ol style="list-style-type: none"> 2次関数の決定 2次方程式 2次関数のグラフとx軸の位置関係 <p>2.1. 2次不等式</p> <p>数学A 第2章 場合の数と確率</p> <ol style="list-style-type: none"> 円周角 円に内接する四角形 円と直線 <p>・教材</p> <p>新課程基本と演習テーマ</p> <p>・一人1台端末の活用 等</p>	<p>数学Ⅰ</p> <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2次方程式の解と2次関数のグラフとの関係について理解している。 2次関数のグラフを用いて2次不等式の解を求めることができる。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2つの数量の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。 2次不等式を利用して具体的な問題について解決することができる。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2次関数で学んだことを活用した問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。 2次関数のグラフとx軸の共有点の位置関係を活用して2次不等式の解を考えようとしている。 <p>数学A</p> <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 円に関する基本的な性質について理解している。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 図形の構成要素間の関係や既に学んだ図形の性質に着目し、図形の新たな性質を見だし、その性質について論理的に考察したり説明したりすることができる。 コンピュータなどの情報機器を用いて図形を表すなどして、図形の性質や作図について統一的・発展的に考察することができる。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 図形の性質で学んだことのよさを認識し活用したり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 図形の性質で学んだことを活用した問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。 	○	○	○	8
	<p>数学Ⅰ 4章 図形と計量</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 正弦、正弦、余弦の意味を理解し、それらを用いて三角形の辺の長さを求めることができる。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 図形の構成要素間の関係に着目し、日常の事象を三角比を利用してその問題を解決することができる。 2平方の定理や正接の定義を利用して、三角比の間に成り立つ関係を考えようとしている。 点の座標を用いて鋭角の三角比を表現したり、それをもとにして鈍角の三角比の定義について考えようとしている。 <p>数学A 2章 図形の性質</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 方べきの定理を利用して線分の長さを求めることができる。 2つの円の位置関係から補助線を引くことによって、線分の長さを求めることができる。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 方べきの定理の証明について、三角形の相似を利用して考察することができる。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 方べきの定理の証明について、三角形の相似を利用して考えようとしている。 	<p>・指導事項</p> <p>数学Ⅰ 第4章 図形と計量</p> <ol style="list-style-type: none"> 2.2. 三角比 2.3. 三角比の相互関係 2.4. 三角比の拡張 <p>数学A 第2章 図形の性質</p> <ol style="list-style-type: none"> 方べきの定理 2つの円 21. 作図 22. 直線と平面 <p>・教材</p> <p>新課程基本と演習テーマ</p> <p>・一人1台端末の活用 等</p>	<p>数学Ⅰ</p> <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 鋭角の三角比の意味と相互関係について理解している。 三角比を鈍角まで拡張する意義と、鋭角の三角比の値を用いて鈍角の三角比の値を求める方法を理解している。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 図形の構成要素間の関係を三角比を用いて表現するとともに、定理や公式として導くことができる。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 図形と計量で学んだことのよさを認識し活用したり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 <p>数学A</p> <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 円に関する基本的な性質について理解している。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 図形の構成要素間の関係や既に学んだ図形の性質に着目し、図形の新たな性質を見だし、その性質について論理的に考察したり説明したりすることができる。 コンピュータなどの情報機器を用いて図形を表すなどして、図形の性質や作図について統一的・発展的に考察することができる。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 図形の性質で学んだことのよさを認識し活用したり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 図形の性質で学んだことを活用した問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。 	○	○	○	7
	<p>定期考査</p>			○	○		1
	<p>数学Ⅰ 4章 図形と計量</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 正弦定理や余弦定理を用いて、外接円の半径を求めたり、既知の辺や角から残りの辺や角の大きさを求めたりすることができる。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 三角比を用いて三角形の構成要素間の関係を考察したり、それらの関係が一般の三角形においても成り立つことを説明したりすることができる。 三角比を用いて三角形の面積公式を導こうとしている。 <p>数学A 2章 図形の性質、3章 数学と人間の活動</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 空間における直線・2平面のなす角を求めることができる。 約数と倍数を求めることができる。 素数、素因数分解の求め方について理解することができる。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 空間における直線と平面の位置関係が垂直になる場合について、平面上に含まれる直線に着目して考察したり、説明したりすることができる。 約数と倍数、素数、素因数分解の知識を利用して最大公約数・最小公倍数について考察することができる。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 空間における直線と平面の位置関係が垂直になる場合について、平面上に含まれる直線に着目して説明しようとしている。 	<p>・指導事項</p> <p>数学Ⅰ 第4章 図形と計量</p> <ol style="list-style-type: none"> 2.5. 正弦定理・余弦定理 2.6. 三角形の面積 2.7. 空間図形への応用 <p>数学A 第2章 図形の性質</p> <ol style="list-style-type: none"> 空間図形と多面体 第3章 数学と人間の活動 24. 約数と倍数 25. 素数と素因数分解 26. 最大公約数・最小公倍数 <p>・教材</p> <p>新課程基本と演習テーマ</p> <p>・一人1台端末の活用 等</p>	<p>数学Ⅰ</p> <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 正弦定理や余弦定理について三角形の決定条件や3平方の定理と関連付けて理解し、三角形の辺の長さや角の大きさなどを求めることができる。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 図形の構成要素間の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 図形と計量で学んだことを活用した問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。 <p>数学A</p> <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 数量や図形に関する概念などと人間の活動との関わりについて理解している。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 数量や図形に関する概念などを、関心に基づいて発展させ考察することができる。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 数学と人間の活動で学んだことのよさを認識し活用したり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 数学と人間の活動で学んだことを活用した問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。 	○	○	○	8

<p>数学Ⅰ 5章 データの分析</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 偏差、分散、標準偏差の定義とその意味や特徴を理解し、データをもとにそれらを求めることができる。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 偏差の総和を用いてデータの散らばりの大きさを表す方法の短所を見出し、分散の定義について考察したり、標準偏差を用いることの意義について説明したりすることができる。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 偏差の総和を用いてデータの散らばりの大きさを表す方法の短所を見出し、分散の定義や標準偏差を用いる意義について考察したりしようとしている。 <p>数学A 3章 数学と人間の活動</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 整数の割り算について理解することができる。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 整数に割り算からユークリッドの互除法について考察することができる。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 数学と人間の活動で学んだことのよさを認識し活用したり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 数学と人間の活動で学んだことを活用した問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。 	<p>・指導事項</p> <p>数学Ⅰ 第5章 データの分析</p> <p>28. データの整理</p> <p>29. データの代表値</p> <p>30. データの散らばりと四分位数</p> <p>31. 分散と標準偏差</p> <p>数学A 第3章 数学と人間の活動</p> <p>27. 整数の割り算</p> <p>28. ユークリッドの互除法</p> <p>29. 1次不定方程式</p> <p>・教材</p> <p>新課程基本と演習テーマ</p> <p>一人1台端末の活用 等</p>	<p>数学Ⅰ</p> <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 分散、標準偏差、散布図及び相関係数の意味やその用い方を理解している。 コンピュータなどの情報機器を用いるなどして、データを表やグラフに整理したり、分散や標準偏差などの基本的な統計量を求めたりすることができる。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察することができる。 目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法などを選択して分析を行い、データの傾向を把握して事象の特徴を表現することができる。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> データの分析で学んだことのよさを認識し活用したり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 <p>数学A</p> <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 数量や図形に関する概念などと人間の活動との関わりについて理解している。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 数量や図形に関する概念などを、関心に基づいて発展させ考察することができる。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 数学と人間の活動で学んだことのよさを認識し活用したり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 数学と人間の活動で学んだことを活用した問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。 	○	○	○	7
<p>定期考査</p>			○	○		1
<p>3 学 期</p> <p>数学Ⅰ 5章 データの分析</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体的な事象において仮説検定の考え方を理解している。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 不確実な事象の起こりやすさに着目し、主張の妥当性について、実験などを通して判断したり、批判的に考察したりすることができる。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 不確実な事象の起こりやすさに着目し、首長の妥当性について、実験などを通して判断したり、批判的に考察したりしようとしている。 <p>数学A 3章 数学と人間の活動</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> n進法の特徴を理解している。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 数量や図形に関する概念などを、関心に基づいて発展させ考察することができる。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 数学と人間の活動で学んだことのよさを認識し活用したり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 数学と人間の活動で学んだことを活用した問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。 	<p>・指導事項</p> <p>数学Ⅰ 第5章 データの分析</p> <p>32. 2つの変量の間の関係</p> <p>33. 仮説検定の考え方</p> <p>数学A 第3章 数学と人間の活動</p> <p>30. n進法</p> <p>31. 座標の考え方</p> <p>・教材</p> <p>新課程基本と演習テーマ</p> <p>一人1台端末の活用 等</p>	<p>数学Ⅰ</p> <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 具体的な事象において仮説検定の考え方を理解している。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 不確実な事象の起こりやすさに着目し、主張の妥当性について、実験などを通して判断したり、批判的に考察したりすることができる。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> データの分析で学んだことを活用した問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。 <p>数学A</p> <p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 数量や図形に関する概念などと人間の活動との関わりについて理解している。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 数量や図形に関する概念などを、関心に基づいて発展させ考察することができる。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 数学と人間の活動で学んだことのよさを認識し活用したり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 数学と人間の活動で学んだことを活用した問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。 	○	○	○	9
<p>定期考査</p>			○	○		1
						合計
						70

高等学校 令和7年度 教科 数学 科目 数学受験演習(自由選択)

教科: 数学 科目: 数学受験演習(自由選択)

単位数: 2 単位

対象学年組: 第 3 学年 選択者

教科担当者: 井上 共之

使用教科書: (新編 数学Ⅰ(数研出版)、新編 数学Ⅱ(数研出版)、チャート式SetUp受験編ⅡABC〔ベクトル〕(基本編)(数研出版)

教科 数学

の目標:

【知識及び技能】数学における基本的な概念や原理・原則を体系的に理解できるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を育てる。

【学びに向かう力、人間性等】問題解決の過程を振り返って考察を深め、評価・改善しようとする態度や創造性の基礎を育てる。

科目 数学受験演習(自由選択) の目標:

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
数学Ⅱを中心に、数学ⅠAⅡB+ベクトルの内容について復習・学習し、問題演習を通じて受験を見据えた基礎力の定着を図る。また、事象を数学的に解釈し、数学的な表現や処理ができる技能を身に付ける。	問題演習を通じて事象を数学的に考察し、問題解決の過程や結果をふり返って発展的に考える力を養うことで、初見の問題にも対応できるような数学的思考力を身に付ける。	問題解決に向けて粘り強く柔軟に考え、数学的論拠に基づいて判断しようとする態度を育てる。また、数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度を育てる。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1、数学Ⅰの内容 【知識及び技能】 数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的に見たり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。 【学びに向かう力、人間性等】 問題解決に向けて粘り強く取り組めるようにする数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	○指導項目 ・数と式 ・集合と命題 ・2次関数 ・図形と計量 ・データの分析 ○使用教材 教科書及び問題集 ○一人1台端末の活用	【知識・技能】 数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 【思考・判断・表現】 ・命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的に見たり目的に応じて適切に変形したりする力を身に付けている。 ・図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力を身に付けている。 ・関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力を身に付けている。 ・社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を身に付けている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・数学のよさを認識し数学を活用しようとしていたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしていたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	○	○	○	17
2、数学Aの内容 【知識及び技能】 図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見いだし、論理的に考察する力、不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力、数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見いだし、数理的に考察する力を養う。 【学びに向かう力、人間性等】 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。	○指導項目 ・場合の数と確率 ・図形の性質 ・数学と人間の活動(整数) ○使用教材 教科書及び問題集 ○一人1台端末の活用	【知識・技能】 ・図形の性質、場合の数と確率についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解している。 ・数学と人間の活動の関係について認識を深めている。 【思考・判断・表現】 ・図形の構成要素間の関係などに着目し、図形の性質を見いだし、論理的に考察する力を身に付けている。 ・不確実な事象に着目し、確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断する力を身に付けている。 ・数学と人間の活動との関わりに着目し、事象に数学の構造を見いだし、数理的に考察する力を身に付けている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・数学のよさを認識し数学を活用しようとしていたり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとしていたりしている。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	○	○	○	10
定期考査			○	○		1

1
学期

高等学校 令和7年度

教科 数学

科目 自選 看護医療系数学

教科： 数学 科目： 自選 看護医療系数学 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 3 学年 1 組、3 組、5 組、6 組、7 組

教科担当者： (1 組、3 組、5 組、6 組、7 組 松井 秀夫)

使用教科書： (東京書籍 数学 I Standard)

教科 数学

の目標：

- 【知識及び技能】 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学科したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し、総合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の

科目 自選 看護医療系数学 の目標： 数学 I・A の内容を深く理解し、看護医療系大学や専門学校的一般受験に臨めるようにする。

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
数と式、図形と計量、2次関数、データの分析、場合の数と確率、図形の性質及び整数の性質についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的に見たり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表し、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。さらに、看護医療系の大学・専門学校的一般入試に対応する学力を身に付ける。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。さらに、看護医療の大学・専門学校的一般入試に対応する学力を身に付けるようにする。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
A 数と式 【知識及び技能】 ・指数法則や乗法公式といった計算規則についての理解を深め、適切に式を変形することができる。 ・乗法公式を逆に用いることで因数分解の公式として利用できることを理解し、式を正しく因数分解することができる。 ・平方根の計算や無理数の計算などを理解する。 【思考力、判断力、表現力等】 ・式を多面的に捉える工夫の中から、目的に応じて適切な方法を判断することができる。 ・式の特徴に応じて、式の一部を1つの文字に置き換えて考えたり、特定の文字に着目して整理するなど、見通しをもって式を因数分解したりすることができる。 ・平方根の計算や無理数の計算などを展開や因数分解の公式や、平方完成などの式変形などの活用ができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 ・式を多面的に捉えて、複数の方法で式を変形する方法について、それぞれのよさを比較・検討しようとしている。 ・式を多面的に捉えて、複数の見方で式を整理して因数分解する方法について、それぞれの良さを比較・検討しようとしている。	1章 数と式 1節 式の計算 1 展開 2 因数分解 2節 実数 1 実数 2 根号を含む式の計算	【知識・技能】 ・2次の乗法公式、因数分解の公式について理解を深めている。 ・数を実数まで拡張する意義を理解し、簡単な無理数の四則計算をすることができる。 ・不等式の解の意味や不等式の性質について理解し、1次不等式の解を求めることができる。 【思考・判断・表現】 ・問題を解決する際に、すでに学んだ計算の方法と関連付けて、式を多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形したりすることができる。 ・不等式の性質を基に1次不等式を解く方法を考察することができる。 ・日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、1次不等式を問題解決に活用することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・数と式で学んだことのよさを認識し活用したり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 ・数と式で学んだことを活用した問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	○	○	○	9
定期考査			○	○		1
A 数と式 【知識及び技能】 ・不等式の意味やその基本性質、不等式の解と不等式を解くことの意味について理解し、1次不等式を解くことができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ・具体的な数の大小関係をもとにして、不等式の基本性質について考察したり、説明したりすることができる。 ・連立不等式の解法を理解し、考察することができる。 ・食塩水の濃度のような看護医療系的一般受験の独特な問題に対応できる。 【学びに向かう力、人間性等】 ・具体的な数の大小関係をもとにして、不等式の基本性質について考察したり、説明したりしようとしている。	1章 数と式 3節 1次不等式 1 不等式と1次不等式 2 不等式の応用	【知識・技能】 ・不等式の解の意味や不等式の性質について理解し、1次不等式の解を求めることができる。 【思考・判断・表現】 ・不等式の性質を基に1次不等式を解く方法を考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・不等式の基礎的な性質を振り返って考察を深めたり、評価を改善したりしようとしている。	○	○	○	3

1
学
期

<p>D 2次関数</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2次関数のグラフの基礎的な項目を理解する。不等式の意味やその基本性質、不等式の解と不等式を解くことの意味について理解し、1次不等式を解くことができる。 関数の定義域・値域の意味を理解し、2次関数のグラフを用いて最大値、最小値を求めることができる。 2次不等式の解と2次関数のグラフの関係について理解し、2次関数のグラフを用いて2次不等式の解を求めることができる。 <p>【思考力・判断力・表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2つの2次関数のグラフの位置関係について考察することができる。 2次関数のグラフを利用して、定義域に応じた値域、最大・最小を論理的に考察したり、具体的な問題の解決に活用したりすることができる。 2次不等式を利用して具体的な問題について解決することができる。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2つの2次関数のグラフの位置関係について考えようとしている。 2次関数のグラフを利用して、定義域に応じた値域、最大・最小を考えようとしている。 <p>2次関数のグラフとx軸の共有点の位置関係を活用して2次不等式の解を 定期考査</p>	<p>2章 2次関数</p> <p>1節 2次関数とそのグラフ</p> <p>3 2次関数の決定</p> <p>2節 2次方程式と2次不等式</p> <p>4 2次関数のグラフとx軸の共有点</p> <p>5 2次関数のグラフとx軸の共有点の個数</p>	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2次方程式の解と2次関数のグラフとの関係について理解している。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2つの数量の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 2次関数で学んだことを活用した問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。 	○	○	○	5
<p>3章 図形と計量</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 正接、正弦、余弦の意味を理解し、それらを用いて三角形の辺の長さを求めることができる。 正弦定理や余弦定理を用いて、外接円の半径を求めたり、既知の辺や角から残りの辺や角の大きさを求めたりすることができる。 <p>【思考力・判断力・表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 図形の構成要素間の関係に着目し、日常の事象を三角比を利用してその問題を解決することができる。 三角比を用いて三角形の構成要素間の関係を考察したり、それらの関係が一般の三角形においても成り立つことを説明したりすることができる。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 三平方の定理や正接の定義を利用して、三角比の間に成り立つ関係を考えようとしている。 点の座標を用いて鋭角の三角比を表現したり、それをもとにして鈍角の三角比の定義について考えたりしようとしている。 三角比を用いて三角形の面積公式を 定期考査 	<p>3章 図形と計量</p> <p>1節 鋭角の三角比</p> <p>1 直角三角形と三角比</p> <p>2 三角比の相互関係</p> <p>2節 三角比の拡張</p> <p>1 三角比と座標</p> <p>2 三角比の性質</p> <p>3節 三角比への応用</p> <p>1 正弦定理・余弦定理・面積の公式</p> <p>2 空間図形の計量</p>	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 鋭角の三角比の意味と相互関係について理解している。 正弦定理や余弦定理について三角形の決定条件や三平方の定理と関連付けて理解し、三角形の辺の長さや角の大きさなどを求めることができる。 三角比を鈍角まで拡張する意義と、鋭角の三角比の値を用いて鈍角の三角比の値を求める方法を理解している。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> 図形の構成要素間の関係を三角比を用いて表現するとともに、定理や公式として導くことができる。 図形の構成要素間の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることができる。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> 図形と計量で学んだことのよさを認識し活用したり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 図形と計量で学んだことを活用した問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。 	○	○		1
<p>2学期</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> 集合の要素の個数に関する基本的な関係や和の法則、積の法則などの数え上げの原則について理解している。 具体的な事象を基に順列及び組合せの意味を理解し、順列の総数や組合せの総数を求めることができる。 確率の意味や基本的な法則についての理解を深め、それらを用いて事象の確率や期待値を求めることができる。 独立な試行の意味を理解し、独立な試行の確率を求めることができる。 条件付き確率の意味を理解し、簡単な場合について条件付き確率を求めることができる。 <p>【思考力・判断力・表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 事象の構造などに着目し、場合の数を求める方法を多面的に考察することができる。 確率の性質や法則に着目し、確率を求める方法を多面的に考察することができる。 確率の性質などに基づいて事象の起こりやすさを判断したり、期待値を意思決定に活用したりすることができる。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> 場合の数と確率で学んだことのよさを認識し活用したり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 場合の数と確率で学んだことを活用した問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したり 定期考査 	<p>5章 場合の数と確率</p> <p>1節 集合と場合の数</p> <p>1 数え上げの原則と集合の要素の個数</p> <p>2 順列</p> <p>3 組合せ</p> <p>2節 確率とその基本性質</p> <p>1 事象と確率</p> <p>2 確率の基本性質</p> <p>3節 いろいろな確率</p> <p>1 独立な試行の確率</p> <p>2 反復試行の確率</p> <p>3 条件付き確率</p>		○	○		10
			○	○		1

3 学 期	<p>4章 図形と計量</p> <p>【知識及び技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 三角形の内角の二等分線と比、外角の二等分線と比などについて理解し、それらを用いて線分の長さを求めることができる。 ・ 三角形の外心・内心・重心の性質を利用して、角の大きさや線分の長さを求めることができる。 ・ メネラウスの定理、チェバの定理を利用していろいろな辺の長さや比を求めることができる。 ・ 方べきの定理を利用して線分の長さを求めることができる。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 三角形の外心・内心・重心の存在とその証明について、様々な性質を利用しながら考察することができる。 ・ 円に内接する四角形の定理、接線と弦のつくる角の定理それぞれの証明について、円周角の定理を利用して考察することができる。 ・ 方べきの定理の証明について、三角形の相似を利用して考察することができる。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 三角形の外心・内心・重心の存在とその証明について、様々な性質を利用しながら考えようとしている。 ・ 方べきの定理の証明について、定期考査 	<p>6章 図形の性質</p> <p>1節 三角形と比</p> <p>1 三角形と比</p> <p>2 三角形の外心・内心・重心</p> <p>2節 円の性質</p> <p>1 円の性質</p> <p>2 方べきの定理</p>	<p>【知識・技能】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 三角形に関する基本的な性質について理解している。 ・ 円に関する基本的な性質について理解している。 ・ 空間図形に関する基本的な性質について理解している。 <p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 図形の構成要素間の関係や既に学んだ図形の性質に着目し、図形の新たな性質を見いだし、その性質について論理的に考察したり説明したりすることができる。 ・ コンピュータなどの情報機器を用いて図形を表すなどして、図形の性質や作図について統一的・発展的に考察することができる。 <p>【主体的に学習に取り組む態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 図形の性質で学んだことのよさを認識し活用したり、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断したりしようとしている。 ・ 図形の性質で学んだことを活用した問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。 				4
					○	○	
							合計
							44

高等学校 令和7年度 教科 理科 科目 化学

教科：理科 科目：化学 単位数：6 単位

対象学年組：第 3 学年 7 組

教科担当者：岩崎

使用教科書：（化学（実教出版））

教科 理科 の目標：

- 【知識及び技能】 自然の事物、現象についての基本的な概念や法則を身に付ける。
- 【思考力、判断力、表現力等】 自然の事物、現象から疑問を見いだすことができ、その疑問に対して仮説を立てることができる。
- 【学びに向かう力、人間性等】 グループワークや実験において自分の意見を発表する等、周囲に対して配慮しながらコミュニケーションをとることができる。

科目 化学 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
自然の事物、現象についての基本的な概念法則を身に付ける。また、実験においては器具を安全に使用することができる。	自然の事物、現象から疑問を見出し、その疑問に対して仮説を立てることができる。また、周囲と疑問点に関して議論を行うことができる。	実験やグループワーク等において、他者に配慮しながら行動することができる。また、他者の意見を取り入れながら、自分の考えを熟成させることができる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	物質の状態と平衡 ・状態変化 ・固体の構造 ・気体の性質 ・溶液	・三態変化の原因が分子間力であることを理解し、そのときの熱の出入りについても把握する。また、気液平衡の概念を理解し、蒸気圧、蒸発と沸騰の違い、沸点についても学ぶ。 ・状態変化には必ず熱の出入りがあることを理解する。また、それに伴う熱量は物質や相互の状態によって異なることを学ぶ。	【知識・技能】 計算をする。 【思考・判断・表現】 仮説を立てる。 【主体的に学習に取り組む態度】 学習に対して努力する。 協働作業をする。	○	○	○	10
	物質の変化と平衡 ・化学反応と熱・光エネルギー ・電池と電気分解 ・反応の速さとしくみ ・化学平衡	・化学反応の種類と反応熱および状態変化に伴う熱などの種類と定義を学び、これらを熱化学方程式で表すことができること、また、ヘスの法則を用いると未知の熱量を計算で求められることを学ぶ。あわせて共有結合の結合エネルギーについても学ぶ。	【知識・技能】 計算をする。 【思考・判断・表現】 仮説を立てる。 【主体的に学習に取り組む態度】 学習に対して努力する。 協働作業をする。	○	○	○	11
	定期考査			○	○		1
	無機物質 ・周期表 ・非金属元素 ・金属元素	金属が水溶液中でイオンとなることは、酸化還元反応の一つであり、イオンになるなりやすさ、つまり金属のイオン化傾向は、金属の種類によって異なることを理解する。 また、金属のイオン化傾向が異なると、金属単体の性質が大きく異なることを理解し、金属の化学的性質と密接に関係していることを学ぶ。	【知識・技能】 計算をする。 【思考・判断・表現】 仮説を立てる。 【主体的に学習に取り組む態度】 学習に対して努力する。 協働作業をする。	○	○	○	20
	有機化合物 ・有機化合物の特徴と分類		【知識・技能】 計算をする。 【思考・判断・表現】 仮説を立てる。 【主体的に学習に取り組む態度】 学習に対して努力する。 協働作業をする。	○	○	○	9
	定期考査			○	○		1

2 学 期	有機化合物 ・脂肪族炭化水素 ・酸素を含む脂肪族化合物 ・芳香族化合物	有機化合物全般について、分類と構造を学び、高分子化合物が生成する反応である重合反応を理解する。また、高分子化合物の性質である軟化点、熱可塑性・熱硬化性についても学ぶ。 合成高分子化合物には合成繊維と合成樹脂などがあるが、それぞれの材料の組成や構造がその特性とどのように関連しているのかを理解し、化学的な理解を深める。	【知識・技能】 計算をする。 【思考・判断・表現】 仮説を立てる。 【主体的に学習に取り組む態度】 学習に対して努力する。 協働作業をする。	○	○	○	41
	定期考査			○	○		1
	高分子化合物 ・高分子化合物 ・天然高分子化合物 ・合成高分子化合物	有機化合物全般について、分類と構造を学び、高分子化合物が生成する反応である重合反応を理解する。また、高分子化合物の性質である軟化点、熱可塑性・熱硬化性についても学ぶ。 合成高分子化合物には合成繊維と合成樹脂などがあるが、それぞれの材料の組成や構造がその特性とどのように関連しているのかを理解し、化学的な理解を深める。	【知識・技能】 計算をする。 【思考・判断・表現】 仮説を立てる。 【主体的に学習に取り組む態度】 学習に対して努力する。 協働作業をする。	○	○	○	32
定期考査			○	○		1	
3 学 期	化学基礎・化学の総まとめ	共通テスト問題や大学入試問題などの様々な問題演習に取り組む。	【知識・技能】 計算をする。 【思考・判断・表現】 仮説を立てる。 【主体的に学習に取り組む態度】 学習に対して努力する。 協働作業をする。	○	○	○	40
	定期考査			○	○		1
						合計	168

年間授業計画 様式例

高等学校 令和7年度 教科

理科 科目 生物

教科： 理科 科目： 生物

単位数： 6 単位

対象学年組： 第 3 学年 選択者

教科担当者： (遊佐)

(組：) (組：) (組：)

使用教科書： (第一学習社)

教科 理科 の目標：

【知識及び技能】 自然の事物、現象についての基本的な概念や法則を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】 簡単な自然の現象に対して仮説を立てることができる。

【学びに向かう力、人間性等】 グループワークや実験において積極的に取り組むことができる。

科目 生物 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生命現象や、自然の事物・現象について基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、観察、実験などに関する基本的な技能が身に付いている。	生命現象や、自然の事物・現象について疑問に思ったことを、他者と共有する中で、新たな発見や課題を見つけ、それに対して探究することができる。	生命現象や、自然の事物・現象に対して積極的に関わり、それらに対する気付きから仮説を立て、自ら課題解決を図ろうとする。生命を尊重し、自然環境の保全に努めようとする。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知 思 態			配当 時数
				知	思	態	
1 学期	生物の進化 ・生命の起源と細胞の進化について、理解する。 ・遺伝子の変化と遺伝子の組み合わせの変化について、理解する。 ・進化のしくみについて、理解する。 生物の系統と進化 ・生物の系統について、理解する。 ・人類の系統と進化について、理解する。	生物の進化 ・生命の起源と細胞の進化 ・遺伝子の変化と遺伝子の組み合わせの変化 ・進化のしくみ 生物の系統と進化 ・生物の系統 ・人類の系統と進化	【知識・技能】 ・生物の進化を地球環境の変化と関連付けて理解している。 ・生物の系統と塩基配列やアミノ酸配列との関係を理解している。 【思考・判断・表現】 ・生物の進化と地球環境の変化との関連に気付くことができる。 ・アミノ酸配列の違いにもとづいて生物の系統関係を推定することができることに、気付くことができる。	○	○	○	21
	定期考査			○	○		1
	細胞と分子 ・生物物質と細胞について、理解する。 ・タンパク質の構造と性質について、理解する。 ・生命現象とタンパク質について、理解する。 代謝 ・代謝とエネルギー ・炭酸同化 ・異化 代謝 ・代謝とエネルギーについて、理解する。 ・炭酸同化について、理解する。 ・異化について、理解する。	細胞と分子 ・生物物質と細胞 ・タンパク質の構造と性質 ・生命現象とタンパク質 代謝 ・代謝とエネルギー ・炭酸同化 ・異化	【知識・技能】 ・細胞を構成する物質を細胞の機能と関連付けて理解している。 【思考・判断・表現】 ・外的条件が酵素に与える影響を検証する検証計画を立案することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・前向きに授業に取り組み、家庭でも学習に取り組むことができる。	○	○	○	29
定期考査			○	○		1	
2 学期	遺伝情報とその発現 ・DNAの複製について、理解する。 ・遺伝子の発現について、理解する。 遺伝子の発現調節と発生 ・遺伝子の発現調節について、理解する。 ・発生と遺伝子の発現調節について、理解する。	遺伝情報とその発現 ・DNAの複製 ・遺伝子の発現 遺伝子の発現調節と発生 ・遺伝子の発現調節 ・発生と遺伝子の発現調節	【知識・技能】 ・DNAの複製のしくみを理解している。 ・転写の調節をタンパク質と関連付けて理解している。 【思考・判断・表現】 ・遺伝子の発現が調整されることで、胚の領域ごとに異なる遺伝子が発現することについて、考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・前向きに授業に取り組み、家庭でも学習に取り組むことができる。	○	○	○	41
	定期考査			○	○		1
	遺伝子を扱う技術とその応用 ・遺伝子を扱う技術について、理解する。 ・遺伝子を扱う技術の応用について、理解する。 動物の反応と行動 ・刺激の受容と反応について、理解する。 ・動物の行動について、理解する。	遺伝子を扱う技術とその応用 ・遺伝子を扱う技術 ・遺伝子を扱う技術の応用 動物の反応と行動 ・刺激の受容と反応 ・動物の行動	【知識・技能】 ・遺伝子を扱う技術の原理と有効性を理解している。 【思考・判断・表現】 ・細胞への遺伝子導入について、考察することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・前向きに授業に取り組み、家庭でも学習に取り組むことができる。	○	○	○	32
定期考査			○	○		1	
3 学期	植物の成長と環境応答 ・植物と環境について、理解する。 ・植物の一生と植物ホルモンについて、理解する。	植物の成長と環境応答 ・植物と環境 ・植物の一生と植物ホルモン	【知識・技能】 ・植物の成長や反応に植物ホルモンが関わることを理解している。 【思考・判断・表現】 ・ダイコンの芽生えがリンゴの果実から受ける影響について仮説を設定し、実験結果をもとに仮説を検証することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・前向きに授業に取り組み、家庭でも学習に取り組むことができる。	○	○	○	29
	生態系のしくみと人間の関わり ・個体群と生物群集について、理解する。 ・生態系の物質生産と消費について、理解する。 ・生態系と人間生活について、理解する。	生態系のしくみと人間の関わり ・個体群と生物群集 ・生態系の物質生産と消費 ・生態系と人間生活	【知識・技能】 ・個体群が維持されるしくみや個体間の関係性を理解している。 【思考・判断・表現】 ・個体群の変動に影響を与える要因を見だし、仮説を設定することができる。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・前向きに授業に取り組み、家庭でも学習に取り組むことができる。	○	○	○	18
	定期考査			○	○		1
						合計	175

高等学校 令和7年度 教科

理科 科目 物理

教科： 理科 科目： 物理

単位数： 6 単位

対象学年組： 第 3 学年 選択者

教科担当者： (上平)

(組：) (組：) (組：)

使用教科書： (数研)

教科 理科 の目標：

【知識及び技能】 自然の事物、現象についての基本的な概念や法則を身に付ける。

【思考力、判断力、表現力等】 簡単な自然の現象に対して仮説を立てることができる。

【学びに向かう力、人間性等】 グループワークや実験において積極的に取り組むことができる。

科目 物理 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
計算ができる。 自然の事物、現象についての基本的な概念や法則を知っている。 実験器具を安全に使用することができる。	問題について仮説を立てることができる。 問題について数式をつくることができる。 法則を数学を使って表すことができる。	学習に向かう努力ができる。 実験やグループワーク等において協働的な行動をとることができる。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知 思 態			配当 時数
				知	思	態	
1 学期	ベクトルの表現を読み取れる。等速直線運動から等加速度直線運動の公式を導ける。放物運動が等速直線運動と等加速度直線運動に分けて考えられる。モーメントが回転を表す物理量であることを知る。剛体の静止条件を知る。 力積を理解できる。一直線上とそれ以外の運動量保存を理解できる。物体の跳ね返りを反発係数を用いて考えられる。衝突問題などで成立する保存則を理解できる。 ボイルシャルルの法則と気体状態方程式を理解できる。気体分子運動論を理解できる。 定期考査	平面内の運動 1：力と運動 2：剛体 運動量の保存 1：運動量と力積 2：運動量保存 3：反発係数 気体分子の運動 1：気体のエネルギーと状態変化	【知識・技能】 計算をする。 【思考・判断・表現】 仮説を立てる。 【主体的に学習に取り組む態度】 学習に対して努力する。 協働作業をする。	○	○	○	21
	熱力学第一法則をエネルギーの収支で理解できる。熱力学第一法則を用いて、定圧、定積、等温、断熱変化を考えられる。熱機関の問題を考えられる。 物体が円運動するための条件を理解できる。単振動を円運動の考え方をつかって考えられる。円運動、単振動を数式を使って考えることができる。ケプラーの法則を理解できる。万有引力による位置エネルギーを理解できる。 定期考査	気体分子の運動 1：気体のエネルギーと状態変化 円運動と単振動、万有引力 1：等速円運動 2：単振動 3：万有引力	【知識・技能】 計算をする。 【思考・判断・表現】 仮説を立てる。 【主体的に学習に取り組む態度】 学習に対して努力する。 協働作業をする。	○	○	○	29
	力学的に惑星の運動を考慮することができる。 波を三角関数で表現できることを知る。音波の性質を知る。固有振動数やドップラー効果について振動数を求められる。光の性質を知る。ヤングの干渉、回折格子、薄膜の干渉、くさびの干渉などを考えることができる。凸凹レンズの作図ができる。凸レンズの公式を図で理解できる。 静電誘導と誘電分極を説明できる。点電荷がつくる電界と電位、電界から受ける力を理解できる。電流を説明できる。オームの法則が抵抗で成立すること、回路でキルヒホッフの法則を理解できる。コンデンサーが電荷を蓄える仕組みを理解できる。コンデンサーのエネルギーを計算できる。回路でコンデンサーの電荷保存の法則を理解できる。 定期考査	円運動、万有引力 3：万有引力 2：波 波の伝わり方 音の伝わり方 光 電場と電流 1：静電気 2：動電気 3：直流回路	【知識・技能】 計算をする。 【思考・判断・表現】 仮説を立てる。 【主体的に学習に取り組む態度】 学習に対して努力する。 協働作業をする。	○	○	○	41
2 学期	磁界を電界の考え方で理解できる。直線電流、円電流とソレノイドコイルがつくる磁界を計算できる。ローレンツ力を理解できる。磁界中の電荷の運動を考慮することができる。電磁誘導を考慮することができる。 定期考査	電流と磁場 1：磁場 2：ローレンツ力 3：電磁誘導	【知識・技能】 計算をする。 【思考・判断・表現】 仮説を立てる。 【主体的に学習に取り組む態度】 学習に対して努力する。 協働作業をする。	○	○	○	32
	電磁誘導を考慮することができる。自己誘導と相互誘導を理解できる。コイルが蓄えるエネルギーを計算できる。交流発電の仕組みを理解できる。交流での抵抗、コンデンサー、コイルの役割を理解できる。RLC直列回路と電気共振を理解できる。 定期考査	交流 1：交流の発生 2：自己誘導と相互誘導 3：交流回路	【知識・技能】 計算をする。 【思考・判断・表現】 仮説を立てる。 【主体的に学習に取り組む態度】 学習に対して努力する。 協働作業をする。	○	○	○	29
3 学期	光電効果を理解できる。ミリカンの油滴実験を理解できる。X線の発生の仕組みが理解できる。X線の干渉が理解できる。水素原子の電子のエネルギー準位を力学的に考えられる。 定期考査	原子 1：光の二重性 2：物質波 3：原子構造とエネルギー準位	【知識・技能】 計算をする。 【思考・判断・表現】 仮説を立てる。 【主体的に学習に取り組む態度】 学習に対して努力する。 協働作業をする。	○	○	○	18
				○	○		1
							合計
							175

高等学校 令和7年度 教科

保健体育 科目 スポーツⅡ

教科：保健体育 科目：スポーツⅡ

単位数：2 単位

対象学年組：第3学年 1組～7組

教科担当者：赤峰・山下

使用教科書：（大修館書店 ステップアップ高校スポーツ2023）

教科 保健体育 の目標：

- 【知識及び技能】 運動の合理的、計画的な実践を通して運動の楽しさや喜びを深く味わい、体力の必要性について理解しようとする。
- 【思考力、判断力、表現力等】 自己の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。
- 【学びに向かう力、人間性等】 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、一人ひとりの違いを大切にしようとする意欲を育て、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。

科目 スポーツⅡ の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
基礎体力を向上と基本的な運動技能の習得を目指し、運動の楽しさや喜びを味わおうとする。運動の多様性や体力の必要性について理解し、それらの技能を身につけようとする。	運動を通して自分を知り、自己の課題にあった解決方法を見つけることができる。グループ活動を通して、自己の考えを他者に伝える力を養う。これまでの活動を振り返り、改善策を考え実行することができる。	自ら進んで集団の中で役割を果たし、周りと協力してスポーツを楽しみ、仲間を大切にできる。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
<p>ソフトボール</p> <p>【知識及び技能】 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開すること。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保すること。</p>	<p>○ソフトボール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体を軸を安定させてバットを振りぬくこと。 ・タイミングを合わせてボールを捉えること。 ・ねらった方向にボールを打ち返すこと。 ・スピードを落とさずに円を描くように塁間を走ること。 ・打球や守備の状況に応じた塁の回り方で、塁を進んだり戻ったりすること。 ・捕球場所へ最短距離で移 ・味方からの送球を受けるために、走者の進む先の塁に動くこと。 ・打球や走者の位置に応じて、中継プレイに備える動きをすること。 	<p>【知識及び技能】 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保することができる。</p>	○	○	○	10
<p>バレーボール</p> <p>【知識及び技能】 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開すること。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保すること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・サーブでは、ボールをねらった場所に打つこと。 ・ボールを相手側のコートに打ち返すこと。 ・攻撃につなげるための次のプレイをしやすい高さや位置にボールを上げること。 ・ネット付近でボールの侵入を防いだり、打ち返したりすること。 ・腕やラケットを強く振って、ネットより高い位置から相手側のコートに打ち込むこと。 ・ポジションの役割に応じて、拾ったりつないだり打ち返したりすること。 	<p>【知識及び技能】 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができる。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保することができる。</p>	○	○	○	15

<p>サッカー</p> <p>【知識及び技能】 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開すること。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保すること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防御をかわして相手陣地やゴールにボールを運ぶこと。 ・ 味方が作り出した空間にパスを送ること。 ・ 空いた空間に向かってボールをコントロールして運ぶこと。 ・ 守備者とボールの間に自分の体を入れて、味方と相手の動きを見ながらボールをキープすること。 ・ 隊形を整えるためにボールを他の空間へ動かすこと。 	<p>【知識及び技能】 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができている。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができている。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保することができている。</p>	○	○	○	15
<p>バスケットボール</p> <p>【知識及び技能】 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開すること。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保すること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防御をかわして相手陣地やゴールにボールを運ぶこと。 ・ 味方が作り出した空間にパスを送ること。 ・ 空いた空間に向かってボールをコントロールして運ぶこと。 ・ 守備者とボールの間に自分の体を入れて、味方と相手の動きを見ながらボールをキープすること。 ・ 隊形を整えるためにボールを他の空間へ動かすこと。 	<p>【知識及び技能】 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができている。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができている。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保することができている。</p>	○	○	○	10
<p>ソフトボール</p> <p>【知識及び技能】 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開すること。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保すること。</p>	<p>○ソフトボール</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 身体の軸を安定させてバットを振りぬくこと。 ・ タイミングを合わせてボールを捉えること。 ・ ねらった方向にボールを打ち返すこと。 ・ スピードを落とさずに円を描くように塁間を走ること。 ・ 打球や守備の状況に応じた塁の回り方で、塁を進んだり戻ったりすること。 ・ 捕球場所へ最短距離で移 ・ 味方からの送球を受けるために、走者の進む先の塁に動くこと。 ・ 打球や走者の位置に応じて、中継プレイに備える動きをすること。 	<p>【知識及び技能】 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができている。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができている。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保することができている。</p>	○	○	○	10

3 学 期	<p>バドミントン</p> <p>【知識及び技能】 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開すること。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保すること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・サーブでは、シャトルをねらった場所に打つこと。 ・シャトルを相手側のコートの空いた場所やねらった場所に打ち返すこと。 ・攻撃につなげるための次のプレイをしやすい高さや位置にシャトルを上げること。 ・ネット付近でシャトルの侵入を防いだり、打ち返したりすること。 ・腕やラケットを強く振って、ネットより高い位置から相手側のコートに打ち込むこと。 ・ポジションの役割に応じて、拾ったりつないだり打ち返したりすること。 ・ラリーの中で、味方の動きに合わせてコート上の空いている場所をかバーする。 	<p>【知識及び技能】 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができている。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができている。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保することができている。</p>	○	○	○	5
	<p>テニス</p> <p>【知識及び技能】 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開すること。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えること。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保すること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・サーブでは、ボールをねらった場所に打つこと。 ・ボールを相手側のコートの空いた場所やねらった場所に打ち返すこと。 ・攻撃につなげるための次のプレイをしやすい高さや位置にボールを上げること。 ・ネット付近でボールの侵入を防いだり、打ち返したりすること。 ・腕やラケットを強く振って、ネットより高い位置から相手側のコートに打ち込むこと。 ・ポジションの役割に応じて、拾ったりつないだり打ち返したりすること。 ・ラリーの中で、味方の動きに合わせてコート上の空いている場所をかバーする。 	<p>【知識及び技能】 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができている。</p> <p>【思考力、判断力、表現力等】 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができている。</p> <p>【学びに向かう力、人間性等】 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保することができている。</p>	○	○	○	5
							合計
							70

高等学校 令和7年度（3学年用） 教科 芸術 科目 保育と音楽

教科： 芸術 科目： 保育と音楽 単位数： 2 単位
 対象学年組： 第 3 学年 1 組～ 7 組 選択者
 教科担当者： 保坂 悠紀
 使用教科書： （なし）

教科 芸術 音楽 の目標：
 【知識及び技能】 創意工夫等を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作、などで表現することができる。
 【思考力、判断力、表現力等】 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性等について理解する。音楽を形作っている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関りについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができる。
 【学びに向かう力、人間性等】 音や音楽、音楽文化と豊かに関わり主体的・協動的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組むことができる。

科目 保育と音楽 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
創意工夫等を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作、などで表現することができる。 曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性等について理解する。	音楽を形作っている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関りについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができる。	音や音楽、音楽文化と豊かに関わり主体的・協動的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組むことができる。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	表現			評価規準	知	思	態	配 当 時 数
		歌	器	創					
【ガイダンス】 授業内ルールの確認	・授業の流れを理解させる ・評価の仕方を理解させる				・話をしっかりと聞けたか				1
A 歌唱<童謡> 「そうざん」「やぎさんゆうびん」「めだかの学校」「どんぐりころころ」等 ①創意工夫等を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作、などで表現する。 【思考力、判断力、表現力等】 ①音色や旋律を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関りについて考え、どのように歌うかについて表現意図をもつ。 【学びに向かう力、人間性等】 ①正しい発声方法を身に付けて表現を創意工夫することに興味をもち、主体的・協動的に取り組む。	・発声練習 ・歌唱 ・歌詞の内容と表現 ・歌唱テスト	○		○	【知識・技能】 ①創意工夫等を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作、などで表現している。 【思考・判断・表現】 ①音色や旋律を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関りについて考え、どのように歌うかについて表現意図をもっている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ①正しい発声方法を身に付けて表現を創意工夫することに興味をもち、主体的・協動的に取り組んでいる。	○	○	○	10
B 器楽<ピアノ> 個々の習熟度に応じたピアノ教則本「バイエル」「ブルグミュラー」等 【知識及び技能】 ①ピアノの奏法について理解する。 ②創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な、曲にふさわしい奏法等の技能を身に付け、器楽で表現することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ①音色、リズム、旋律、強弱等を知覚し、それらの働きを感じながら、どのように表現するかについて表現意図をもち、表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ①ピアノやピアノ音楽に関心をもち、主体的協動的に器楽の学習活動に取り組む。	・ピアノの基本的な奏法 ・音階練習 ・指の練習 ・実技テスト ・授業内発表会		○	○	【知識・技能】 ①ピアノの奏法について理解している。 ②創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な、曲にふさわしい奏法等の技能を身に付け、器楽で表現することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ①音色、リズム、旋律、強弱等を知覚し、それらの働きを感じながら、どのように表現するかについて表現意図をもち、表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ①ピアノやピアノ音楽に関心をもち、主体的協動的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。	○	○	○	20
A 歌唱<外国語歌曲> ①創意工夫等を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作、などで表現する。 【思考力、判断力、表現力等】 ①音色や旋律を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関りについて考え、どのように歌うかについて表現意図をもつ。 【学びに向かう力、人間性等】 ①正しい発声方法を身に付けて表現を創意工夫することに興味をもち、主体的・協動的に取り組む。	・発声練習 ・発音練習 ・歌唱 ・歌詞の内容と表現 ・歌唱テスト	○		○	【知識・技能】 ①創意工夫等を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作、などで表現している。 【思考・判断・表現】 ①音色や旋律を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関りについて考え、どのように歌うかについて表現意図をもっている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ①正しい発声方法を身に付けて表現を創意工夫することに興味をもち、主体的・協動的に取り組んでいる。	○	○	○	10

<p>2・3 学期</p>	<p>B 器楽<ピアノ> 個々の習熟度に応じたピアノ教則本「バイエル」「ブルグミュラー」等 【知識及び技能】 ①ピアノの奏法について理解する。 ②創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な、曲にふさわしい奏法等の技能を身に付け、器楽で表現することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ①音色、リズム、旋律、強弱等を知覚し、それらの働きを感受しながら、どのように表現するかについて表現意図をもち、表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ①ピアノやピアノ音楽に関心をもち、主体的協働的に器楽の学習活動に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ピアノの基本的な奏法 ・音階練習 ・指の練習 ・実技テスト ・授業内発表会 	○	○	<p>【知識・技能】 ①ピアノの奏法について理解している。 ②創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な、曲にふさわしい奏法等の技能を身に付け、器楽で表現することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ①音色、リズム、旋律、強弱等を知覚し、それらの働きを感受しながら、どのように表現するかについて。 【学びに向かう力、人間性等】 ①ピアノやピアノ音楽に関心をもち、主体的協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。</p>	○	○	○	20
	<p>A ミュージックベル 【知識及び技能】 ①ミュージックベルの構造や奏法について理解することができる。 ②創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な、曲にふさわしい奏法等の技能を身に付け、器楽で表現することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ①音色、リズム、旋律、強弱等を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関りについて考え、どのように表現するかについて表現意図をもち、表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ①ミュージックベルやミュージックベル音楽に関心をもち、主体的協働的に取り組む。 ②アンサンブルの演奏をすることに関心をもち、主体的・協働的に器楽の活動に取り組む。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ミュージックベルの基本的な奏法 ・英語音名、イタリア語音名 ・グループ決め、担当決め ・ミュージックベル用楽譜作り ・グループ練習 ・グループ発表・鑑賞 	○	○	<p>【知識及び技能】 ①ミュージックベルの構造や奏法について理解している。 ②創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な、曲にふさわしい奏法等の技能を身に付け、器楽で表現することができる。 【思考力、判断力、表現力等】 ①音色、リズム、旋律、強弱等を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関りについて考え、どのように表現するかについて表現意図をもち、表現することができる。 【学びに向かう力、人間性等】 ①ミュージックベルやミュージックベル音楽に関心をもち、主体的協働的に取り組もうとしている。 ②アンサンブルの演奏をすることに関心をもち、主体的・協働的に器楽の活動に取り組もうとしている。</p>	○	○	○	8

高等学校 令和7年度（3学年用） 教科 外国語（英語） 科目 総合英語 I

教科： 外国語（英語） 科目： 総合英語 I 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 3 学年 1 組～ 7 組

教科担当者： 網島 幸佑

使用教科書：（「大学入試 肘井学の読解のための英文法が面白いほどわかる本 必修編」「成川の深めて解!」）

教科 外国語（英語） の目標：

【知識及び技能】大学入試の長文を読むことができる読解力と語彙力を身につける。

【思考力、判断力、表現力等】文章の論理展開を意識した読み方ができ、深い理解力と考え方を身につける。

【学びに向かう力、人間性等】自らの力で英語を学び、英語を探究できる力を身に付ける。

科目 総合英語 I の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
入試で活用できる英文法、英作文力、及び英訳能力をつける。大学入試の長文を読むことができる読解力と語彙力を身につける。	文章の論理展開を意識した読み方ができ、深い理解力と考え方を身につける。	幅広い背景知識について知見を広げ、自らの力で英語を学び、英語を探究できる力を身につける。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域				評価規準	知	思	態	配 当 時 数	
		聞	読	話 （ 書）	書						
「大学入試 肘井学の読解のための英文法が面白いほどわかる本 必修編」 「成川の深めて解ける英文法 OUTPUT」 【知識及び技能】英語の入試長文について、必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】英語の入試長文について、必要な情報、話し手・書き手の意図、概要や要点、詳細を捉えたり、聞いたり読んだりしたことを活用できる。 【学びに向かう力、人間性等】英語の入試長文について、必要な情報、話し手・書き手の意図、概要や要点、詳細を捉えたり、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分 定期考査	【題材内容】テーマ02 名詞句で英文が読めるテーマ03 名詞節で英文が読める テーマ04 形容詞句で英文が読める テーマ05 形容詞節で英文が読める テーマ06 副詞句で英文が読める テーマ07 副詞節で英文が読める 【言語材料】第1章 文型と文の要素、第2章 be 形容詞 前置詞型、第3章 SV A 前置詞 B 型、第4章 時制 前編、第5章 時制 後編、第6章 助動詞 【言語の働き】説明する、理由を述べる、紹介する、発表する ・教材 「大学入試 肘井学の読解のための英文法が面白いほどわかる本 必修編」「成川の深めて解ける英文法 OUTPUT」 ・一人1 台端末の活用 等	○	○	○	○					11	
	「大学入試 肘井学の読解のための英文法が面白いほどわかる本 必修編」 「成川の深めて解ける英文法 OUTPUT」 【知識及び技能】英語の入試長文について、必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】英語の入試長文について、必要な情報、話し手・書き手の意図、概要や要点、詳細を捉えたり、聞いたり読んだりしたことを活用できる。 【学びに向かう力、人間性等】英語の入試長文について、必要な情報、話し手・書き手の意図、概要や要点、詳細を捉えたり、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分 定期考査	【題材内容】テーマ08 to do の識別で英文が読める テーマ09 -ing の識別で英文が読める テーマ10 過去分詞の識別で英文が読める テーマ11 thatの識別で英文が読める テーマ12 it の識別で英文が読める テーマ13 asの識別で英文が読める 【言語材料】第7章 仮定法、第8章 受動態、第9章 不定詞、第10章 動名詞、第11章 分詞、第12章 準動詞 【言語の働き】説明する、理由を述べる、紹介する、発表する ・教材 「大学入試 肘井学の読解のための英文法が面白いほどわかる本 必修編」「成川の深めて解ける英文法 OUTPUT」 ・一人1 台端末の活用 等	○	○	○	○					11
	「大学入試 肘井学の読解のための英文法が面白いほどわかる本 必修編」 「成川の深めて解ける英文法 OUTPUT」 【知識及び技能】英語の入試長文について、必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】英語の入試長文について、必要な情報、話し手・書き手の意図、概要や要点、詳細を捉えたり、聞いたり読んだりしたことを活用できる。 【学びに向かう力、人間性等】英語の入試長文について、必要な情報、話し手・書き手の意図、概要や要点、詳細を捉えたり、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分 定期考査	【題材内容】 テーマ14 接続詞で英文が読める テーマ15 倒置で英文が読める テーマ16 省略で英文が読める テーマ17 強調構文で英文が読める テーマ18 呼応で英文が読める 【言語材料】第13章 関係詞、第14章 比較、第15章 接続詞、第16章 名詞・冠詞、第17章 代名詞 【言語の働き】説明する、理由を述べる、紹介する、発表する ・教材 「大学入試 肘井学の読解のための英文法が面白いほどわかる本 必修編」「成川の深めて解ける英文法 OUTPUT」 ・一人1 台端末の活用 等	○	○	○	○					11
「大学入試 肘井学の読解のための英文法が面白いほどわかる本 必修編」 「成川の深めて解ける英文法 OUTPUT」 【知識及び技能】英語の入試長文について、必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】英語の入試長文について、必要な情報、話し手・書き手の意図、概要や要点、詳細を捉えたり、聞いたり読んだりしたことを活用できる。 【学びに向かう力、人間性等】英語の入試長文について、必要な情報、話し手・書き手の意図、概要や要点、詳細を捉えたり、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分 定期考査	【題材内容】 テーマ19 ネクサスで英文が読める テーマ20 挿入で英文が読める テーマ21 比較で英文が読める テーマ22 複合関係詞で英文が読める 【言語材料】第18章 形容詞・副詞、第19章 前置詞、第20章 否定・疑問 【言語の働き】説明する、理由を述べる、紹介する、発表する ・教材 「大学入試 肘井学の読解のための英文法が面白いほどわかる本 必修編」「成川の深めて解ける英文法 OUTPUT」 ・一人1 台端末の活用 等	○	○	○	○					11	
	「大学入試 肘井学の読解のための英文法が面白いほどわかる本 必修編」 「成川の深めて解ける英文法 OUTPUT」 【知識及び技能】英語の入試長文について、必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】英語の入試長文について、必要な情報、話し手・書き手の意図、概要や要点、詳細を捉えたり、聞いたり読んだりしたことを活用できる。 【学びに向かう力、人間性等】英語の入試長文について、必要な情報、話し手・書き手の意図、概要や要点、詳細を捉えたり、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分 定期考査	【題材内容】 テーマ14 接続詞で英文が読める テーマ15 倒置で英文が読める テーマ16 省略で英文が読める テーマ17 強調構文で英文が読める テーマ18 呼応で英文が読める 【言語材料】第13章 関係詞、第14章 比較、第15章 接続詞、第16章 名詞・冠詞、第17章 代名詞 【言語の働き】説明する、理由を述べる、紹介する、発表する ・教材 「大学入試 肘井学の読解のための英文法が面白いほどわかる本 必修編」「成川の深めて解ける英文法 OUTPUT」 ・一人1 台端末の活用 等	○	○	○	○					11
	「大学入試 肘井学の読解のための英文法が面白いほどわかる本 必修編」 「成川の深めて解ける英文法 OUTPUT」 【知識及び技能】英語の入試長文について、必要な情報を読み取り、書き手の意図を把握したり、概要や要点を目的に応じて捉えたりすることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】英語の入試長文について、必要な情報、話し手・書き手の意図、概要や要点、詳細を捉えたり、聞いたり読んだりしたことを活用できる。 【学びに向かう力、人間性等】英語の入試長文について、必要な情報、話し手・書き手の意図、概要や要点、詳細を捉えたり、聞いたり読んだりしたことを活用しながら、自分 定期考査	【題材内容】 テーマ19 ネクサスで英文が読める テーマ20 挿入で英文が読める テーマ21 比較で英文が読める テーマ22 複合関係詞で英文が読める 【言語材料】第18章 形容詞・副詞、第19章 前置詞、第20章 否定・疑問 【言語の働き】説明する、理由を述べる、紹介する、発表する ・教材 「大学入試 肘井学の読解のための英文法が面白いほどわかる本 必修編」「成川の深めて解ける英文法 OUTPUT」 ・一人1 台端末の活用 等	○	○	○	○					11

高等学校 令和7年度（1学年用） 教科

科目

教科： 0

科目： 0

単位数：

単位

対象学年組： 第 3 学年 1 組～ 7 組 選択者

教科担当者： (1 組～7 組：関) (組：) (組：) (組：) (組：) (組：)

使用教科書： (フードデザイン 実教出版)

教科 0 の目標：

【知識及び技能】調理の種類と特徴を理解する

【思考力、判断力、表現力等】調理を科学的に理解し、創造する

【学びに向かう力、人間性等】配膳や食事のマナー調理特性を生かしておいしく作ることができる。

科目 0 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
調理の種類と特徴を理解する	調理を科学的に理解し、創造する	配膳や食事のマナー調理特性を生かしておいしく

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配 当 時 数
第1章 食生活と健康 [1]食事の意義と役割 [2]食をとりまく現状” “第2章 栄養素のはたらきと食事計画 [1]からだのしくみと食べ物 [2]炭水化物 [3]脂質 [4]たんぱく質 [5]ビタミン [6]ミネラル [7]水・その他の物質”	①食事の役割を知る ②食生活の文化の成り立ちを知り、その変化の過程と現代の食生活との関係を知る ③現代の食生活の問題点について、生徒各自の食生活を点検し、問題点を把握して自らの食生活を改善する方法を考える” “①健康な食生活を送るには、どのような栄養素をどれくらい摂ればよいのかを知る ②食品の栄養的特質と調理性を理解し、食生活にいかせるようにする ③各栄養素の種類と働きを理解し、食品を組み合わせて摂る大切さを考える ④各食品の特質やそれを生かした加工食品について知り、調理に生かせる力を養う”	○食生活の文化に関心を持ち、人間と食べ物との関わりについて考えようとしている。(ワークシート・発表) ○家族や自分の食生活について、栄養や健康と関わらせて考えようとしている。(ワークシート・発表) ○栄養素の種類と働き、栄養素等摂取の基準や食品群別摂取量の目安を理解している。(ワークシート) ○調理方法について理解を深め、意欲的に調理に取り組もうという姿勢を持つ。(ワークシート・発表) ○うまみ成分等を科学的に理解し、食品の特質を生かした調理法についても理解を深める。(ワークシート)	○	○	○	5
[3]脂質 [4]たんぱく質 [5]ビタミン [6]ミネラル [7]水・その他の物質” “第4章 調理の基本 [1]調理とおいしさ [2]調理操作 [3]調味操作” “【調理実習①】 (1) 淡色野菜の調理的性質を理解する (ビタミン) (2) 淡色野菜を使った料理” “【調理実習②】 (1) 肉類の調理的性質を理解する (脂質) (2) 肉類を使った料理” “【調理実習③】 (1) 芋類の調理的性質を理解する (2) 芋類を使った料理” “【調理実習④・⑤】 (1) 卵・乳製品の調理的性質を理解する (たんぱく質・無機質) (2) 卵・乳製品を使った料理”	“①調理の種類と特徴について理解する ②調理を科学的に理解する態度を養い、食品の特質をいかして美味しく調理できる技術を身につける ③配膳や食事のマナーについて理解する ④淡色野菜の特徴を把握し、調理特性を生かして美味しくつくることができる” “①調理の種類と特徴について理解する ②調理を科学的に理解する態度を養い、食品の特質をいかして美味しく調理できる技術を身につける ③配膳や食事のマナーについて理解する ④卵・乳製品の特徴を把握し、調理特性を生かして美味しくつくることができる” “①調理の種類と特徴について理解する ②調理を科学的に理解する態度を養い、食品の特質をいかして美味しく調理できる技術を身につける ③配膳や食事のマナーについて理解する	○調理実習に意欲的に取り組んでいる。(実習) ○調理の手順(材料購入・調理操作・盛りつけ・食事・後片づけ)について理解している。(実習) ○調理実習に意欲的に取り組んでいる。(実習) ○調理の手順(材料購入・調理操作・盛りつけ・食事・後片づけ)について理解している。(実習) “○調理実習に意欲的に取り組んでいる。(実習) ○調理の手順(材料購入・調理操作・盛りつけ・食事・後片づけ)について理解している。(実習) ○調理の基本的な技術を身につけ、専門的な技術の習得に努めている。(実習)”	○	○	○	8
定期考査			○	○		1
	“①調理の種類と特徴について理解する ②調理を科学的に理解する態度を養い、食品の特質をいかして美味しく調理できる技術を身につける ③配膳や食事のマナーについて理解する ④卵・乳製品の特徴を把握し、調理特性を生かして美味しくつくることができる”	○調理実習に意欲的に取り組んでいる。(実習) ○調理の手順(材料購入・調理操作・盛りつけ・食事・後片づけ)について理解している。(実習) ○調理実習に意欲的に取り組んでいる。(実習) ○調理の手順(材料購入・調理操作・盛りつけ・食事・後片づけ)について理解している。(実習) ○調理実習に意欲的に取り組んでいる。(実習) ○調理の手順(材料購入・調理操作・盛りつけ・食事・後片づけ)について理解している。(実習) ○調理の基本的な技術を身につけ、専門的な	○	○	○	8

		①調理の種類と特徴について理解する ②調理を科学的に理解する態度を養い、食品の特質をいかして美味しく調理できる技術を身につける ③配膳や食事のマナーについて理解する ④卵・乳製品の特徴を把握し、調理特性を生かして美味しくつくることができる	○	○	○	7
	定期考査		○	○		1
2 学 期	①日本料理、西洋料理等それぞれの様式に応じた食卓構成と作法について理解させる	“○調理実習に意欲的に取り組んでいる。(実習) ○調理の手順(材料購入・調理操作・盛りつけ・食事・後片づけ)について理解している。(実習) ○調理の基本的な技術を身につけ、専門的な技術の習得に努めている。(実習)” “○日本料理、西洋料理など代表的な料理様式について、それぞれの特徴に関心を持つようとしている。(ワークシート・実習) ○季節や行事、食事の目的などに応じて食卓を演出しようとする意欲・関心が感じられる。(ワークシート・実習)” “○中国料理など代表的な料理様式について、それぞれの特徴に関心を持つようとしている。(ワークシート・実習) ○季節や行事、食事の目的などに応じて食卓を演出しようとする意欲・関心が感じられる。(ワークシート・実習)”	○	○	○	5
	“①中国料理の様式に応じた食卓構成と作法について理解させる ①日本料理の献立の違いを知り、手順やサービス、マナーについて理解させる ②西洋料理の形式による違いを知り、手順やサービス、マナーについて理解させる ③地域によって異なる中国料理の特徴を知り、サービスやマナーについて理解させる ④和風・洋風・中国風ごとのテーブルコーディネートの特徴を知り、状況に応じたコーディネートについて考えさせたり、実際にコーディネートを実践させる ⑤コーディネートに必要な小物を製作させる。		○	○	○	8
3 学 期			○	○		1
			○	○	○	8
			○	○	○	7
			○	○		1

高等学校 令和7年度（1学年用） 教科 家庭 科目 保育基礎

教科： 家庭 科目： 保育基礎 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 3 学年 1 組～ 7 組

教科担当者： 1～7組： 関戸， 小守

使用教科書： （『子どもの発達と保育 育つ・育てる・育ち合う』 教育図書 ）

教科 家庭 の目標：

【知識及び技能】 人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、生活を主体的に営む為に必要な基礎的知識の理解を深める共に、それらに係る技能を身に付けるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、生涯を見通して課題を解決する力を養う。

【学びに向かう力、人間性等】 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域や社会での生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

科目 保育基礎 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活や金融、環境などについて、生活を主体的に営む為に必要な基礎的知識の理解を深めると共に、それらに係る技能を身に付けるようにする。	生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域や社会での生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
1 学 期	・現在の保育をめぐる問題を取り上げ、高校生として保育を学ぶ意義を理解する。 ・保育の目標は、適切に保護しながら教育的に関わることであり、子ども自身の成長・発達を援助、擁護することであると理解する。	保育の必要性和意義 保育とは 人間形成と保育	新聞や保育誌等から現在の保育の問題を理解できたか、積極的に考えることができたか（グループディスカッション・発表・ワークシート）	○	○	○	4
	・保育者は乳幼児の発達過程を見通し、活動の場面や個々の乳幼児に応じてさまざまな役割があることを理解する。 ・子どもがどのように身の回りを見ているかを実際に体験させ、目線を合わせることで子どもの気持ちや行動を理解すること・子どもの安全を考えて行動することを実習の目的とする。 ・保育の場としての家庭保育と集団保育があることを知り、それぞれの特徴や役割を学び、子どもの成長発達に両方が必要であることを理解する。 ・幼稚園と保育所・その他の施設との違いを学び 集団保育の課題について定期考査	保育者の役割 保育者の役割とは 指導のポイント 子ども体験 家庭保育と集団保育	実際の保育記録から保育者の役割をまとめ、理解することができたか（ロールプレイ・発表） チャイルドヴィジョンを工夫して製作することができたか（作品） 安全を確保しながら主体的に実習することができたか（子ども体験） 家庭保育と集団保育の特徴をまとめることができたか（ワークシート） 集団保育の課題について主体的に考えることができたか（グループディスカッション・ワークシート）	○	○	○	6
				○	○		1
	・児童観は、学問の進展や時代背景により変化していることを学ぶ。 ・長い歴史を経て、子どもが個人として尊重されるようになったことを理解する。 ・子どもの権利について理解する。 ・児童福祉の理念や法律と生徒について学び、保護者を必要とするのみならず、時代を担う児童の健全育成を目標としていることを理解する。 ・児童相談所や保育所などの児童福祉機関や施設の種類の目的を学び、児童と家庭に対する社会的援助を理解する。	児童観の変遷 児童観とは これまでの児童観 児童福祉 児童福祉の意義 児童福祉に関する法律 児童福祉のための機関・施設	子どもがどのような存在としてとらえられてきたか、今後どのように大切な存在として考えていかなければならないかを考えることができたか （発表） 理念や法律について理解を深めることができたか（ワークシート） 子どもにとって幸せとは何か、具体的に考える（発表・グループディスカッション）	○	○	○	4
	・児童を取り巻く環境の変化に対応して子育て家族に対する社会的支援を充実させる必要があることを理解する。 ・子育て支援の現状を知り、子育ての社会的支援の課題と展望を考える。 定期考査	児童家庭福祉 社会的支援の必要性 子育て家族への支援 少子化対策と子育て支援	自分の住む地域の支援体制を調査し、今後どのような支援が必要かを考える（ワークシート） 【期末考査】	○	○	○	4
			○	○		1	

2 学 期	<ul style="list-style-type: none"> 人間の発達に関心を持ち、乳幼児期が人間の発達の基礎を培う時期であることを理解する。 乳幼児期は、親を中心とした身近な人との関わりによって心が安定し、考え方・感じ方・行動の仕方などが発達していくことを理解する。 歴史的な経過を踏まえながら、現代における発達観を理解する。 子どもを「人」として育てるために必要な援助について考える。 乳幼児の生活の特徴を学び、健康を保持増進し、順調な成長を促す上で、発育発達に応じた養護が必要なことを理解する。 乳幼児の食生活が発育や発達に及ぼす影響が大きいことを学習し、母乳栄養や離乳食の重要性を理解する。 生活習慣形成の意義と重要性を理解し、乳幼児の個人差に配慮することを学ぶ。 基本的な生活習慣を身につけるためには、保育環境の工夫が必要なことを学ぶ。 社会的な生活習慣は、社会のルールや人との関わりの中で身につけていくことを学ぶ。 	<p>人間発達のなかの乳幼児期 子どもの成長とその条件 乳幼児期の特徴 発達観と保育 発達観の変遷 保育に必要な発達観 子どもの生活 生活 健康管理 養護 栄養と食事 生活習慣の形成 生活習慣の意義 基本的な生活習慣</p>	<p>乳幼児の観察や視聴覚教材を通して、乳幼児の持つ可能性を認識し、学習を深めることができたか（ワークシート・発表） 発達観を理解し、保育に必要な視点考え方を身につけることができたか（ワークシート） 生活の特徴・食生活について、実験や実習を通して理解を深めることができたか（調乳実習・離乳食実習・幼児食実習） 発達段階に応じた生活習慣について、演技実習を通して学習を深めることができたか（演技実習・ワークシート・事例研究）</p>	1	12
	<ul style="list-style-type: none"> 乳幼児の生活の特徴を学び、健康を保持増進し、順調な成長を促す上で、発育発達に応じた養護が必要なことを理解する。 乳幼児の食生活が発育や発達に及ぼす影響が大きいことを学習し、母乳栄養や離乳食の重要性を理解する。 心身の発達に応じた指導方法や子どもの心をひきつける環境作りなどを学習し、具体的な保育の原理を学ぶ。 乳幼児は遊びを通して発育・発達することを理解し、保育者が発達に合わせて遊びを働きかけることを学ぶ。 集団においても、乳幼児一人ひとりを理解し、自己が発揮できる指導が重要であることを理解する。 精神発達の特徴を学び、乳幼児期が人格形成上重要な時期であることを理解する。 精神発達のためには、保育者の働きかけと意欲を高める環境作りが大切であることを理解する。 	<p>子どもの生活 生活 健康管理 養護 栄養と食事 指導の原理 乳幼児にふさわしい生活の展開 遊びをいかしていく保育 環境をととのえる保育 一人ひとりに応じる保育 乳幼児の発達 発達の特徴 精神発達</p>	<p>生活の特徴・食生活について、実験や実習を通して理解を深めることができたか（調乳実習・離乳食実習・幼児食実習） 手あそび、読み書き、運動遊びなど実際に活動して子どもの発達段階に応じた遊びの内容を理解・紹介することができたか（実習） 子どもの成長に合った児童文化財や道具を製作することができたか（製作） 精神発達の特長について理解を深め、保育者としての姿勢について考えることができたか（ワークシート）</p>		10
3 学 期	<ul style="list-style-type: none"> 乳幼児期は基本的な人間関係の樹立のために愛着が重要であることを、泣く・笑うなどを通して理解する。 大人や友達など、多くの人との関わりによって人として自立していくことを理解する。 発達における方向性や順序性などには共通性があるが、時期や形、強さなどには個別的な特徴を持っていることを理解する。 反抗期と自我について考える。 子どもの問題行動と養育環境との関わりについて理解する。 	<p>人間関係の発達 親子関係と子どもの発達 人間関係のひろがり 発達の個性と保育 発達の個性と影響要因 心の健康と保育 問題行動</p>	<p>愛着関係の形成のためにどのような保育態度がよいか、グループで検討し、発表する（グループディスカッション・発表） 事例研究やロールプレイを通して、発達の個性と特徴を理解することができたか、子どもの問題行動について理解を深めることができたか（事例研究・ロールプレイ・グループディスカッション）</p>		4
					<p>合計 46</p>

